

学習者間のリーディング能力差に配慮した レッスンプラン

～オーラル・イントロダクションのプレ・リーディング活動としての効果～

山梨県立大学 杉田 由仁

はじめに

- 習熟度別クラス編成
- 担当クラスのTOEIC Bridgeスコア(入学時)

<i>N=31</i>	Listening	Reading	Total
平均	54.58	57.35	111.93
標準偏差	5.45	7.55	10.72
最小値	36	38	80
最大値	62	66	120

オーラル・イントロダクションの目的

- Harold E. Palmer, "Oral Method"
- 主として教材の内容について行う場合 (story-centered)
- 「本文を読む前の活動(pre-reading activity)」として指導過程に位置づける
→ 学習者にリーディングを行う内容を理解するために必要な背景知識を事前に与え、スキーマを活性化

オーラル・イントロダクションの効果

- 内容スキーマを活性化させる予備的な読みの活動としてオーラル・イントロダクションを行うことが読解活動の効率を高める (望月 1992)
- オーラル・イントロダクションによる内容の予測を行いながら、文章構造などの形式スキーマを活性化する読解指導は下位レベルの学習者に有効(相澤 1993)

オーラル・イントロダクションの効果 (杉田 2003)

- 中位レベルの学生を対象に、スキーマ活性化と同時に背景知識を与えるプレ・リーディング活動(Oral introduction)、スキーマ活性化に限定されたプレ・リーディング活動(Prequestioning)、ポスト・リーディング活動という3タイプのリーディング指導を行い、その効果を検証
- プレ・リーディング活動を行わずにポスト・リーディング活動を行った学生が読解力を伸ばした

担当クラスの概要

- 看護学部1年生基礎クラス31名(男1. 女30)
- 2009年度・前期(4～7月)
- 「総合英語 I a」

教科として学んできた知識をもとに、英語を読み、書き、聞き、話す活動にバランスよく取り組むことにより、実践的コミュニケーションの基礎となる4技能の向上を図る。

レッスンプランの概要

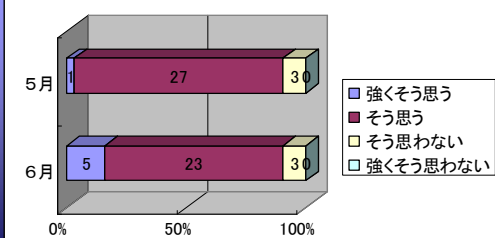
- 使用教材: 静哲人/R. Calman. *Ready to Start?* 『総合英語コースブック(基礎編)』 松柏社
- 指導過程
Greetings & Presentation → Warm-up Activity → **Listening Activity** → Reading Activity → Vocabulary Check → Assignment & Greetings

オーラル・イントロダクションの方法

- オーラルイントロダクションの原稿を作成し、暗記する
- 平易な語彙や構文を用いて本文の内容を書き換えたり、書き加えたりする
- 英語による教材本文の説明だけでなく、能動的にリスニングさせるための配慮として、理解度の確認や内容の展開を予測させるための発問を行う

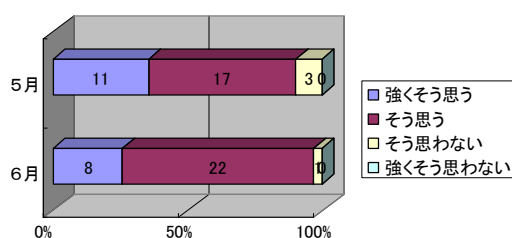
授業の理解度

今日の授業内容は理解できた



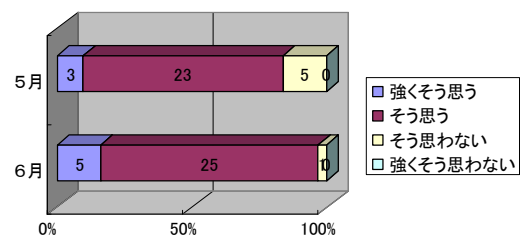
英語による説明

教師の英語による説明はわかりやすい



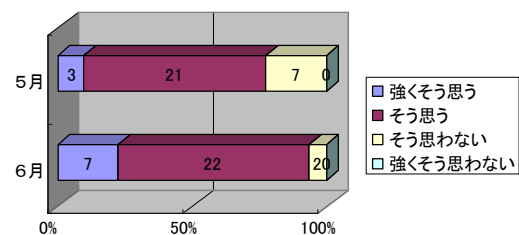
英語による活動や課題

英語による活動や課題は効果的である



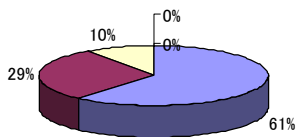
授業のレベル

授業のレベルは自分に合っている



授業に関するアンケート調査(7月)

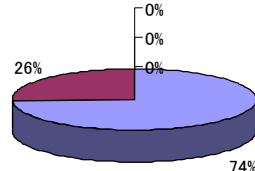
難しすぎることもしやしすぎることもない授業だった



■ そう思う ■ やや思う □ どちらともいえない
□ あまりそう思わない ■ そう思わない

授業に関するアンケート調査(7月)

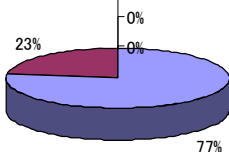
毎回の授業内容や要点がわかりやすい展開だった



■ そう思う ■ やや思う □ どちらともいえない
□ あまりそう思わない ■ そう思わない

授業に関するアンケート調査(7月)

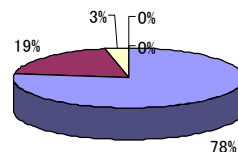
内容についてわかりやすい説明があった



■ そう思う ■ やや思う □ どちらともいえない
□ あまりそう思わない ■ そう思わない

授業に関するアンケート調査(7月)

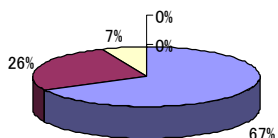
授業の中で学生の反応や理解の程度を確認していた



■ そう思う ■ やや思う □ どちらともいえない
□ あまりそう思わない ■ そう思わない

授業に関するアンケート調査(7月)

この授業科目に総合的に満足している



■ そう思う ■ やや思う □ どちらともいえない
□ あまりそう思わない ■ そう思わない

受講生の自由記述から

- オーラル・イントロダクションの理解度(聴解)の向上に関する記述
「最初の頃よりも英語を聞き取れるようになった気がする」
「英語の説明を、以前よりはずっと理解できるようになった」

受講生の自由記述から

- オーラル・イントロダクションのリーディングへの効果に関する記述
「テキストの内容を英語でわかりやすく話してくれるので、読解が難しくならず良かった」
「英語による説明がわかりやすく、きちんと内容を理解した上で(読解)問題に入れるので効率的だと思う」

受講生の自由記述から

- オーラル・イントロダクションによるモチベーション向上に関する記述
「日本語がない授業なので、なんとか聞き取ろうと必死になれる。だからちゃんと勉強になる」
「毎回、英語による説明を聞き、(読解)問題に取り組むことで、少しずつ英語を勉強するのが楽しかった」

実践報告のまとめ

- リーディング指導の前に、教師がオーラル・イントロダクションを行うことは、
 - 1) リスニング・スキルの向上につながる
 - 2) 効果的なプレ・リーディング活動となる
 - 3) 学生にとってわかりやすい授業となる
 - 4) 英語の授業に対する意欲化につながる

今後の課題

- Pre-/post- デザインによるリサーチを行い、オーラル・イントロダクションを導入したレッスンプランが、リスニングおよびリーディング能力そのものをどの程度高めることができるのかを検証する
- 外国語学習における動機づけに関わる主要質問紙の項目を検討し、オーラル・イントロダクションが英語学習へのモチベーションに与える効果を検証する

引用文献

- 相澤一美(1993)「Bottom-up Processing を活性化させる読解指導」『小山工業高等専門学校研究紀要』No.25, pp.35-44.
- Mochizuki, M. (1992). Oral introduction as a means of providing relevant schemata for text comprehension. *The IRLT Bulletin*, No. 6, 1-14.

引用文献

- 杉田由仁(2003)「スキーマ活性化に対する習熟度と読解力の伸びに関する研究」『関東甲信越英語教育学会紀要』Vol.17, pp.13-22.